

事務事業名	合生地区ほ場整備事業				☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 03	働く人々が輝き続けるまちづくり			所属部	産業振興部	所属課	農政課	
施策名	計画 11	農業の振興			所属係	農地整備班	課長名	古閑誠也	
基本事業名	体系 30	生産基盤の確保			担当者名	末永 潔	電話番号 (内線)	248-1111 1164	
予算科目	会計 01	款 06	項 01	目 12	事業	農地事業			
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (20 年度 ~ 24 年度)				法令根拠				
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) 合生地区約45haのほ場整備の計画 (区画整備・農道整備・排水路整備・暗渠整備・堰の改修) (業務の内容) ・役員会、推進委員会、地権者説明会を開催し、事業同意書を徴収する。 ・事業申請を行う。 ・ほ場整備の実施。 (予算の内訳) 6-1-12-3 時間外勤務手当により支出。					総 投 入 量	財 源 内 訳	国庫支出金	420,000	
							都道府県支出金	140,000	
							地方債		
							その他	70,000	
							一般財源	70,000	
							事業費計 (A)	700,000	
人 件 費	正規職員従事人数	4							
	延べ業務時間	480							
	人件費計 (B)	1,906							
					トータルコスト(A)+(B)				701,906

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・役員会、推進委員会を行った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・役員会、地権者説明会、同意書徴収を行う。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・農地(田・畑)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・整備される。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・生産基盤が整っている。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 会議開催回数	回
イ 事業同意率	%
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 農地の面積	ha
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア ほ場整備率	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア ほ場整備率/全体農地面積	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	24 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円					30,000	120,000	120,000
			都道府県支出金	千円					10,000	40,000	40,000
			地方債	千円							
			その他	千円					5,000	20,000	20,000
			一般財源	千円					5,000	20,000	20,000
			事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	50,000	200,000	200,000
	人件費		正規職員従事人数	人			4	3	3	3	3
			延べ業務時間	時間			590	650	650	650	650
			人件費計 (B)	千円	0	0	2,342	2,581	2,581	2,581	2,581
	トータルコスト(A)+(B)				千円	0	0	2,342	2,581	52,581	202,581
活動指標		アイウ	回				3				
			%				78				
対象指標		アイウ	ha				44				
成果指標		アイウ	%								
上位成果指標		アイウ	%								

事務事業名	合生地区ほ場整備事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
地元要望により開始された。(平成2年度より)

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
・補助率の低下(県20%から17.5%)。
・農家の高齢化や後継者不足。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・旧西合志町からの持越し事業であり、地域のことを考えれば是非、実施して欲しい。(議会等)
・将来を考え事業の実施を望む。(農家)
・地益権の問題解決なくしては事業できない。(関係農家)
・高齢者のため、負担金が払えない。(関係農家)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 新市建設計画に記載された計画である。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 農業基盤整備事業であり、規模、内容の置いても県営事業となる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ ほ場整備未実施の地区であり、実施予定地区は全て対象としている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 農地の集積や営農改善活動計画による向上を目指している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 10aが基本の水田地帯であり、道路も狭く大型機械の耕作が不便である。事業を廃止した場合、耕作放棄地などが発生する恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 農地土地改良事業の県営事業として計画している。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 役員会等で協議し、事業内容を検討している。(区画整理・暗渠排水・堰の改修)
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 事務委託に関しては、熊本県土地改良事業連合会に委託や協力を依頼している。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 受益者負担割合を基本に説明している。

合志市

事務事業名	合生地区ほ場整備事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)



(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由



(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項